

大阪 IR カジノにおける責任あるギャンブルとギャンブル
依存に関する調査報告 2023 年度

早野 慎吾(代表)

久徳 康史

續木 大介

大阪府遊技業協同組合委託事業

要 旨

政府および業界事業者は、ギャンブルに関連する問題を最小限に抑えるために、責任ギャンブル(RG)の取り組みやプログラムを実施する必要がある。RGの目的は、ギャンブルに関連する社会的リスクの発生を減らすことにあり、ギャンブル依存対策の有用性を論じるには、その取り組みやプログラムに関する科学的根拠を示すことが不可欠である。そしてRGのイニシアティブやプログラムは、ギャンブル参加者がギャンブルへの支出を無理のない範囲で維持できるよう支援することが重要である。

筆者らは、2023年4月に国の認定を受けた大阪IRにおけるRGに関するオンライン多人数調査を2023年12月に実施した。その結果、公営競技、宝くじ(ナンバーズなどを含む)、パチンコ・パチスロを比較した場合、特にパチンコ・パチスロだけが問題とされる要素は見いだせなかった。宝くじや公営競技とくらべてパチンコ・パチスロの継続率がもっとも低く、またそのギャンブル参加を1年以上やめた場合、パチンコ・パチスロのSOGSスコアが最も低かった。大阪府の行政関係者は、大阪IRカジノによってもたらされる利益を謳う一方で、大阪IRカジノに関して科学的根拠なしにパチンコ・パチスロだけを問題視する発言が目立つ。科学的根拠のない取り組みやプログラムでは、ギャンブル依存対策とはならない。参加者の80%以上が年収600万円以下であるパチンコ・パチスロと、パレートの法則(80:20の法則)の構造をなすカジノでは、客層が大きく異なることが予想される。大阪IRカジノのギャンブル依存対策では、カジノに参加する客層に合わせた対策が必要である。

はじめに

日本では、2016年12月26日に「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律」(IR推進法)が施行され、2018年7月27日には「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律」(IR整備法)が成立した。IR整備法は、それまで違法であったカジノを合法化しようとするものであり、大きな注目を集めた。大阪IR関連事業については、メディア報道でもギャンブル依存症がしばしば話題に上がったが、それは、カジノ設置反対の口実としてギャンブル依存症やマネーロンダリングがあげられるからである¹。ギャンブル依存症の問題が政治的に利用されていると見られる状況がある。

日本のカジノ設置候補地は、お台場(東京都)、横浜(神奈川県)、夢洲(大阪府)、常滑(愛知県)、和歌山(和歌山県)、佐世保(長崎県)であった。カジノ反対派はギャンブル依存症を反対理由としてあげている。カジノ推進派は、ギャンブル依存症はパチンコやパチスロが原因であると主張したが、それは、世論の批判をかわす目的があると考えられる。

1 「『IR、依存症生まない保証ない』IR反対団体の代表が語る理由」(朝日新聞デジタル2021年9月30日)、「賛否渦巻くカジノ①「ギャンブル否定論は今さら感」根強い依存症懸念に疑問」(産経ニュース2023年7月23日)など。

2023年4月、大阪IRは政府によって承認された。大阪IRカジノの承認に関連して、大阪市議会は「パチンコ、パチスロ等をギャンブルに位置づけ、ギャンブル等依存症防止のための適切な対策を促進させることを求める意見書」を可決し、パチンコ業界を非難した²。その意見書では、「ギャンブル依存症患者の多くは、パチンコ、パチスロ、インターネットカジノ、オンラインカジノなどに依存している」と述べている。2023年4月に複数の新聞社が大阪府民を対象に実施したアンケート調査では、約4割が大阪IRに反対していることが報道された³。具体的な根拠を示さないことから、意見書の目的は、反対意見をかわすための情報操作の可能性も考えられる。

報告者は、2023年12月に大阪府民1万人を対象にギャンブル依存症と大阪IRカジノに関するオンライン調査を実施した。本報告では、この調査結果を分析し、「入場料6,000円」や「マイナンバーの提示義務」などの条件が、ギャンブルの社会的リスクをどの程度排除できるか、また、パチンコ⁴が公営競技や宝くじ等と比べて問題となる要素があるかどうかを分析した。

文献レビュー

政府や業界事業者は、ギャンブルに関連する問題を最小限に抑えるために、責任あるギャンブル(RG)の取り組みやプログラムを実施している。それらは、特にギャンブラーが支出を妥当な範囲内に維持できるよう支援することで、ギャンブルに関連する社会的リスクの発生率を低減することを目的としている。Ladouceuraら(2017)は、政府や業界事業者が行うそれらのプログラムや取り組みの多くは、科学的根拠にほとんど基づいていないか、まったく基づいていないと指摘している。Smits & Rubenstein(2011)は、政府やギャンブル産業が提供するギャンブル依存症対策は、RGへの取り組みとしてほとんど進展していないと指摘している。Williamsら(2012)は、効果を裏付ける実証的証拠が欠如しているにもかかわらず、多くの投機的なRG活動が実施され続けていることを説明している。Ladouceuraら(2017)は、プログラムは既存の科学的根拠に基づいて開発されるべきであると強調している。

IR関連プロジェクトの最も問題となる側面は、ギャンブル依存症に対する国民の不安を煽りながら、科学的調査による客観的なデータを提供しないことである。例えば、大阪府はシンガポールの例をモデルとして大阪IRカジノを計画しており、シンガポールは「IRのオープン前から国をあげて依存症対策に取り組むことで、オープン後の方が、ギャンブル等依存が疑われる者等の割合が減少した」と報告している⁵。鶴田ら(2017)は、シンガポールのカジノ合法化のプロセスに関して、社会的リスクへの対策については、リー・シェンロン首

2 <https://www.city.osaka.lg.jp/shikai/page/0000567710.html>

3 「IR誘致、賛成が反対を上回る 大阪ダブル選 本社電話世論調査」(毎日新聞・大阪2023.4.2)、「IR誘致、反対多数 大阪市民・府民ともに 朝日調査」(朝日新聞デジタル2023.4.3)

4 本稿で用いるパチンコは、パチスロを含む。

5 <https://www.pref.osaka.lg.jp/o080010/irs-kikaku/gaiyou/izonsyoutaisaku.html>

相による裏付けのない「依存症患者の総数は増加しないだろう」という主張で議論が終わっており、社会的リスクに関する証拠に基づく議論はないと結論づけている。Winslow ら (2015) は、シンガポールでは責任あるギャンブルの対策によりギャンブル依存症の有病率が減少したと報告しているが、Jia (2015) は、Thye Hua Kwan 問題ギャンブル回復センター (THKPGRC) と精神衛生研究所 (IMH) の国家依存症管理サービス機構 (NAMS) は、2012 年から 2014 年の間に、2009 年から 2011 年の期間と比較して、問題ギャンブルの事例が 60%増加した⁶と報告している。このような相反する報告がある状況では、NAMS データの信頼性を精査し、ギャンブル事情が日本と異なるシンガポールの事例が日本にどの程度適応できるのかを分析する必要がある。

調査・分析方法

著者は、大阪 IR に関する RG に関するオンライン調査(大阪 IR 調査)を 2023 年 12 月 22 日から 12 月 26 日に実施した。大阪 IR 調査は、大阪府在住の 156,290 人に配布し、有効回答数が 10,000 人に達した時点で終了した。調査項目は、基本項目(性別、職業、年収など)9 項目と、ギャンブル関連項目(ギャンブル経験、ギャンブル時間、ギャンブル金額、ギャンブル画面など)36 項目である。また、2020 年にギャンブル依存症に関する全国オンライン調査(早野調査、2020 年)も実施している⁷。本稿では、早野調査 2020 の結果も使用して結果を報告する。

調査結果

まず、大阪 IR 調査における大阪 IR カジノ関連の 2 項目について報告する。大阪 IR カジノでは、入場料 6,000 円の徴収とマイナンバーの提示を、RG の主要条件として求めている。調査文は以下の通りである。

Q. あなたは日本カジノに行きたい、行ってみたいと思いますか。あなたのお気持ちに最も近いものをお選びください。(1つ選択)

6 シンガポール政府は、ギャンブル依存症に対する国民の認識が高まったことと、対策を求める行動の促進が増加の要因であると分析している。つまり、ギャンブル依存が増加していることを認識している。

7 早野調査 2020 は年 8 月 12 日から 15 日にかけて、20 代から 80 代のモニター 492,963 人に対して実施した。「過去 1 年間にギャンブルをしたことがある」という回答者が 1 万 5000 人に達した時点でデータ収集を終了した。総サンプル数は、42,880 人、そのうち過去 1 年間にギャンブルをしたことがある人は 14,780 人有効サンプルである。使用したギャンプリングスクリーンは SOGS(The South Oaks Gambling Screen) で、ランダムサンプリングではないため SOGS スコアに大きく影響を与えるギャンブル経験の条件を一定にした。調査対象は、公営競技、パチンコ、カジノだけでなく、日本ではこれまで報告されていない宝くじや、ギャンブルではないがギャンブル要素の強い株・先物取引なども含めた。調査項目は、ギャンブルの頻度、期待獲得額、ギャンブルをする理由など他種目に及ぶ。なお、同一サンプルに対して 2021 年に第 2 回、2022 年に第 3 回、2023 年 12 月に第 4 回の調査を実施しており、SOGS スコアの変化率やその要因などを調査している。

1. どんな条件でも、行ってみたい。
2. 現在の条件なら、行ってみたい。
3. マイナンバー提示だけなら、行ってみたい。
4. 入場料 6,000 円だけなら、行ってみたい。
5. マイナンバー・入場料ともに不要なら行ってみたい。
6. 条件に関わらず、行きたいとは思わない。

表 1 大阪 IR カジノへの参加意向

		1	2	3	4	5	6	Total
ギャンブル経験なし	度数	31	54	107	14	203	2,670	3,079
	期待度数	73.6	155.2	284.2	53.3	426.1	2086.6	
	調整済み残差	-6.0	-10.0	-13.3	-6.5	-14.0	27.0	
過去 1 年でのギャンブル経験なし	度数	27	71	167	30	323	1604	2,222
	期待度数	53.1	112.0	205.1	38.4	307.5	1505.8	
	調整済み残差	-4.1	-4.5	-3.2	-1.6	1.1	5.1	
過去 1 年でのギャンブル経験あり	度数	181	379	649	129	858	2,503	4,699
	期待度数	112.3	236.8	433.7	81.3	650.0	3184.5	
	調整済み残差	9.0	13.0	14.9	7.3	12.0	-29.2	
Total	度数	239	504	923	173	1384	6,777	10,000

表 1 は、IR 参加意向の要件(上記 1-6)の結果について、ギャンブル経験の有無(「ギャンブル経験なし」、「過去 1 年でのギャンブル経験なし」、「過去 1 年でのギャンブル経験あり」)別に提示している。ギャンブル経験の有無により有意な差が認められる、 $\chi^2(10, N = 10,000) = 1028.23, p < .001$ 。

参加意向のある人々を表す 1 と 2 のグループを合わせると、「ギャンブル経験なし」は 2.8%(85/3,079)、「過去 1 年でのギャンブル経験なし」は 4.4%(98/2,222)、「過去 1 年でのギャンブル経験あり」は 11.9%(560/4,699)となっている。ギャンブル経験の違いがカジノ参加意向と有意に関係している、 $\chi^2(2, N = 10,000) = 591.17, p < .001$ 。

3 の「マイナンバー提示だけなら、行ってみたい」項目は、入場料 6,000 円による抑止効果を示している。この条件は、ギャンブル経験の有無によって 3.5%-13.8%の抑止効果があるが、ギャンブル経験のない人に対して抑止効果は低いことがわかる、 $\chi^2(2, N = 10,000) = 573.88, p < .001$ 。

ギャンブル経験のある人は、6,000 円使うのであれば他のギャンブルに使いたいと考え、ギャンブル経験のない人は、他の娯楽と同様に入場料としての認識があるのではないかと思われる。

4の「入場料6,000円だけなら、行ってみたい」項目は、マイナンバー提示の抑止効果を示しているが、マイナンバー提示のみの抑止効果はサンプルによって0.5%-2.7%と低い。しかし、入場料6,000円とマイナンバー提示の両方が求められると、相乗効果が現れて、ギャンブル経験によって6.6%-18.3%の抑止効果がある。また、マイナンバーの提示は入場制限などの情報管理に利用されるため、過剰な参加への抑止力となる可能性がある。ただし、この条件はカジノへの参加への抑止力であり、ギャンブル依存への抑止力となるかは不明である。

図1は、直近1年間にギャンブル経験のあるサンプルについて、ギャンブルの種類別に大阪IRカジノへの訪問意向率(1+2)を示している。パチンコ参加者の大阪IRカジノ参加意向率は、公営競技参加者と比較して低い。公営競技参加者の中で最も参加意向率が高いオートレース参加者(42.7%)の半分以下である。表2は、パチンコと各公営競技には、有意な差が確認できる。

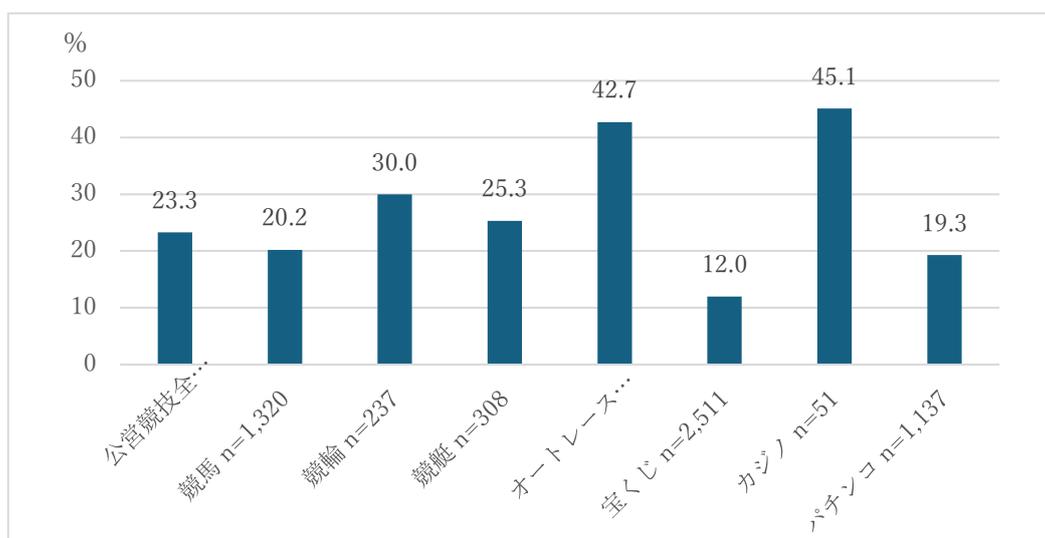


図1 大阪IRカジノへの参加意向(ギャンブルの種類別)
(過去1年間のギャンブル経験)

表2 参加意向率におけるパチンコと各公営競技との差

競技名	自由度	クramerのV	χ^2	P値
競馬	1	0.030	7.03	<.001
競輪	1	0.120	72.86	<.001
競艇	1	0.088	41.89	<.001
オートレース	1	0.139	89.40	<.001

図2は早野調査2020からの結果である。ここに示されているとおり、パチンコ遊技の主な目的は、ストレス解消、時間つぶし、お小遣い稼ぎなどで、庶民の娯楽といえる内容である。孫(2023)は、カジノは一般的にパレートの法則(80:20の法則)に基づいて構成されており、カジノでギャンブルをする人のほとんどは所得上位20%の富裕層であると指摘している。大阪IR調査で、パチンコ参加者の77.8%は年収600万円以下で、27.5%は年収200万円未満、1,000万以上は4.6%となっている。宝くじ⁸参加者では600万円以下79.3%、200万円未満31.5%、1,000万以上は4.4%である。参加意向率の最も高いオートレースでは、600万円以下69.4%、200万円以下19.1%、1,000万以上9.4%である。

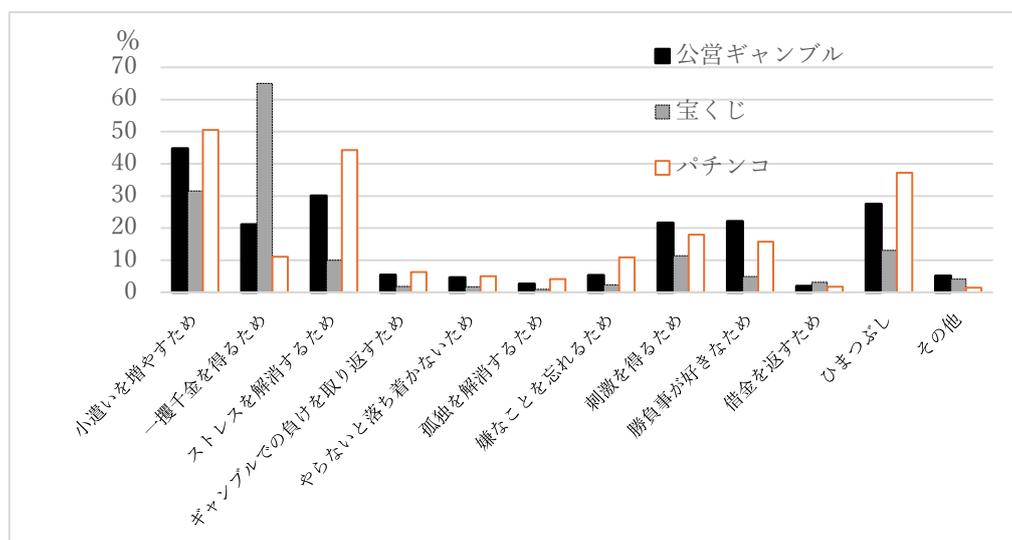


図2 ギャンブルに参加する目的 早野調査2020 (n=14,780)

2022年の競馬参加者は来場279万人、総参加数1億9,680万人(JRA公式サイト)⁹、パチンコ参加者は770万人(「レジャー白書2023」)、宝くじ参加者は5,050万人(宝くじ公式サイト)¹⁰である。参加者の数だけを考えても、パチンコだけを問題視したギャンブル等依存症対策はあまりに問題が大きい。パチンコ参加者でカジノの入場料6,000円を支払ってまでカジノに行く人は、かなり限定される。

8 宝くじには、ナンバーズやロトを含む。

9 JRA HP https://www.jra.go.jp/company/about/outline/growth/pdf/g_22_01.pdf

10 Lotteries HP <https://www.takarakuji-official.jp/about/research/001.html>

図3は、大阪IR調査における各ギャンブルの継続率¹¹を示している。宝くじが48.4%と最も継続率が高く、競艇が29.8%、オートレースが37.7%となっている。一方、最も低いのはパチンコで26.0%となっている。パチンコは、宝くじや公営競技と比較して、有意に継続率が低いことがわかる(表3)。継続率が低さは、依存症へのなりにくさを意味している。ただし、今回の結果は、パチンコが現地でしかできない遊技性のため、新型コロナ禍において止めた人もいる状況を考慮する必要がある。

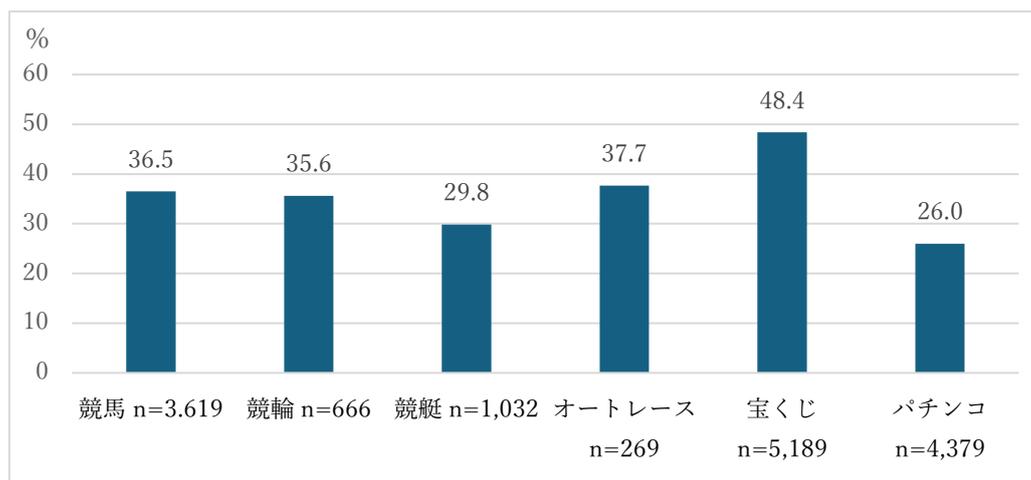


図3 各ギャンブルの継続率

表3 パチンコと他のギャンブルにおける継続率の差

競技名	自由度	クramerのV	χ^2	P値
競馬	1	0.114	103.34	<.001
競輪	1	0.073	27.00	<.001
競艇	1	0.034	6.42	<.001
オートレース	1	0.051	12.29	<.001
宝くじ	1	0.230	506.23	<.001

パチンコでは1日あたりの最大使用金額や金銭の使用時間などが継続率に影響している可能性がある。パチンコは約10万円であるのに対し、宝くじや公営競技には上限がない。また、出玉を消費するのも一定の時間が必要である。それに対して、公営競技は勝った分をすべて次の賭けに回すことができる。報酬期待効果(射幸心)についても、宝くじや公営競技に比べるとかなり低い(早野 2021)。パチンコはギャンブルの性質をもつが、宝くじや公営競技と比べて射幸性(報酬期待効果)と依存性(継続性)は低い。

11 ギャンブル経験者における過去1年でのギャンブル歴がある人の割合。

各ギャンブルにおける平均 SOGS¹²スコアによる母集団平均値の差の検定(マンホイットニーU検定)結果を表3に示す。図4は、各ギャンブルの種類について、平均 SOGS スコアの継続(過去1年でのギャンブル経歴あり)と非継続(過去1年でのギャンブル経歴なし)を提示している。少なくとも1年間その種類のギャンブルを行わなかった場合、SOGSスコアがどの程度減少するかを示している。つまり、ギャンブル依存の回復率を示している。

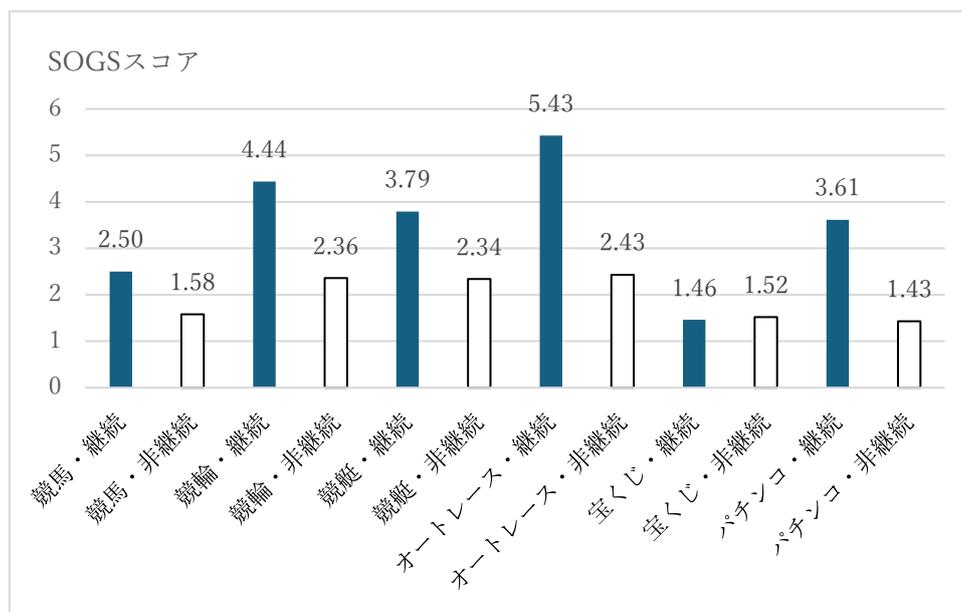


図4 各ギャンブルの平均 SOGS スコア(継続-非継続)

世界保健機構(2017)における ICD-11¹³では、12ヶ月継続している事が必要なため、非継続のサンプルは、基本的にギャンブル依存症の定義からは外れることになるが、止めた場合の状況を知ることができる。

宝くじは、継続と非継続との差がほとんどない。競馬参加者は、過去1年でのギャンブル経験があるにも関わらず、平均 SOGS スコアが 2.50 となっている。RG においてある程度の成果を収めている。これは、おそらく中央競馬によるエンターテイメント性による効果と考えられる(早野ら 2020)。オートレースの継続サンプルは、平均 SOGS スコア 5 を超えており、平均値でギャンブル依存症を疑われるレベルを超えている。競輪、競艇、オートレースの継続サンプルの平均 SOGS スコアは高く、3.79-5.43 の範囲であるが、非継続サンプルでは 2.4 程度にまで低下している。パチンコの継続サンプルでの平均 SOGS は 3.61 で、競艇に近い値ではあるが、非継続サンプルでは 1.43 まで低下しており、宝くじのスコアよりも

12 アメリカのサウスオックス財団が開発したギャンブルスクリーン。12項目20点満点の設問で、5点以上がギャンブル依存症の疑いがあるとされる。
 13 世界保健機構(2017)における疾病及び関連保健問題の国際統計分類の ICD11 コード。重度の場合は、12ヶ月は短縮される。

低い。表 4 と表 5 は、継続サンプルと非継続サンプルの平均 SOGS スコアに関する母集団平均値の差の検定(マンホイットニーU検定)結果である。宝くじを除く継続サンプルと非継続サンプルの平均 SOGS スコアには、すべて有意な差が確認できる(表 4)。パチンコ非継続と各公営競技非継続の平均 SOGS スコアにも有意な差が確認できる(表 5)。

表 4 各ギャンブルの継続と非継続の差(母集団の差の検定)

種目	差	U	自由度	P 値	± 99% 信頼区間
競馬	0.92	9.33	3,615	<.001	0.254
競輪	2.08	7.15	664	<.001	0.751
競艇	1.45	6.25	1030	<.001	0.600
オートレース	3.00	6.287	267	<.001	1.238
宝くじ	-0.06	0.895	5187	n.s.	0.184
パチンコ	2.18	23.13	4,377	.001	0.243

表 5 パチンコ非継続と他のギャンブル非継続の差(母集団の差の検定)

種目	差	U	自由度	P 度	± 99%信頼区間
競馬	-0.15	2.27	5538	<.005	0.168
競輪	-0.93	7.481	3669	<.001	0.320
競艇	-0.91	8.882	3964	<.001	0.263
オートレース	-1.00	5.393	3413	<.001	0.476
宝くじ	-0.03	0.404	5751	n.s.	0.169

2013 年の厚生労働省科研費研究による調査で「ギャンブル依存疑い 536 万人」(日本経済新聞 2014. 8. 20)と発表された。この調査では過去 12 ヶ月の状況を確認しておらず、さらには、どのようなギャンブルがどのようにギャンブル依存と関連しているかなどの調査がまったくされていないにも係わらず、研究班のメンバーが「世界のほとんどの国では成人の 1%前後にとどまるのに比べて日本の割合は高い」「パチンコやパチスロが身近な場所に普及していることが影響しているのではないか」とコメントしたことで、パチンコ業界へのバッシングにつながった。

2017 年に久里浜医療センターが「国内のギャンブル等依存に関する疫学調査」(調査対象 1 万人、有効回答数 4,685 人)を実施した。その調査では、SOGS \geq 5(ギャンブル依存疑いあり)の割合は、「生涯」で 3.6% (推定 320 万人)、「過去 1 年」では 0.8% (推定 70 万人)と報告されている(「ギャンブル等依存症の実態に関する全国疫学調査結果中間まとめ」2017)。つまり、現状でギャンブル依存症が疑われるのは 0.8%である。「生涯」での値は「過去 1 年以内」での値よりも約 4.57 倍高い。すでに依存症と判定できないサンプルを含めた「生涯」の値を前面にだす出す報道はミスリードを招いている。

おわりに

大阪 IR 調査と早野 2020 調査から、大阪 IR カジノの参加意向状況を各ギャンブルとギャンブル依存症の観点から分析した。その結果、パチンコについては特に問題となるような要因は見られなかった。また、パチンコの継続率は、宝くじや各公営競技よりも低く、1年以上やめた場合の回復率が非常に高いことが示された。

ギャンブル依存症対策は、RG の観点からも重要な課題である。大阪市議会可決の意見書「ギャンブル依存症患者の多くは、パチンコ、パチスロ、インターネットカジノ、オンラインカジノなどに依存している」と述べるには、明確な根拠が必要である。偏見に基づく対策は、改善を遅らせるだけでなく、被害をもたらす。ギャンブル依存症対策を推進するには、公営ギャンブル、宝くじ、パチンコ、カジノなど、あらゆる形態のギャンブルに関する科学的根拠に基づいた対策が必要である。

参考文献

- 早野慎吾 (2021) 「ギャンブル等行為の射幸性に関する研究」『都留文科大学研究紀要』 93 1-10
- 石川智久 (2017) 「夢洲における万博・IR (カジノを含む 統合型リゾート) の概要と課題について一期待される経済効果と夢洲の持続的発展に向けて取り組むべき課題一」『Research Report』 2017-009 1-24
- 孫鎮五 崔載弦 (2023) 「責任あるギャンブルに関する示唆ーカジノ顧客の傾向分析と「介入」の概念からー」『HOSPITALITY』 33 57-65
- 鶴田一 十代田朗 津々見崇 (2017) 「シンガポールにおけるカジノ合法化検討過程に関する研究」『都市計画論文集』 52-3 723-730
- Hayano, S., Dong, R., Miyata Y., & Kasuga, S. (2021). The study of differences by region and type of gambling on the degree of gambling addiction in Japan. *Scientific Reports*, 11-1
- Jia, J. Y. C. (2015). Problem gambling: 60% more cases seen in last 3 years. *Channel NewsAsia*.
- Ladouceura, R., Shaffer, P., Blaszczynskicand, A., & Shaffer, H. J. (2017). Responsible gambling: a synthesis of the empirical evidence. *Addiction Research & Theory*, 25 (3), 225-235
- Smith, G. & Rubenstein, D. (2011). Socially responsible and accountable gambling in the public interest. *Journal of Gambling Issues*, 25, 54-67.
- Winslow, M., Cheok, C., & Subramaniam, M. (2015). Gambling in Singapore: an overview of history, research, treatment and policy. *Addiction*, 110 (9), 1383-1387.

付記

本報告者は、以下の研究報告(英語論文)の日本語版である。

Shingo HAYANO, Yasushi KYUTOKU, Daisuke TUDUKI (2024) The Research on Responsible Gambling in relation to Osaka IR Casino : A Perspective on Gambling Addiction. *The Tsuru University Review*, 100 1-11.

研究組織 メンバー

早野慎吾(代表) 都留文科大学文学部教授 言語心理学 社会心理学

<https://researchmap.jp/read0124198>

久徳康史 中央大学教授 実験心理学

https://researchmap.jp/subordinal_boneless

續木大介 高知大学理工学部講師 脳機能研究

https://researchmap.jp/tsuzukid/research_experience

江澤実紀(研究補助) 東京外国語大学大学院 院生

2024年11月26日